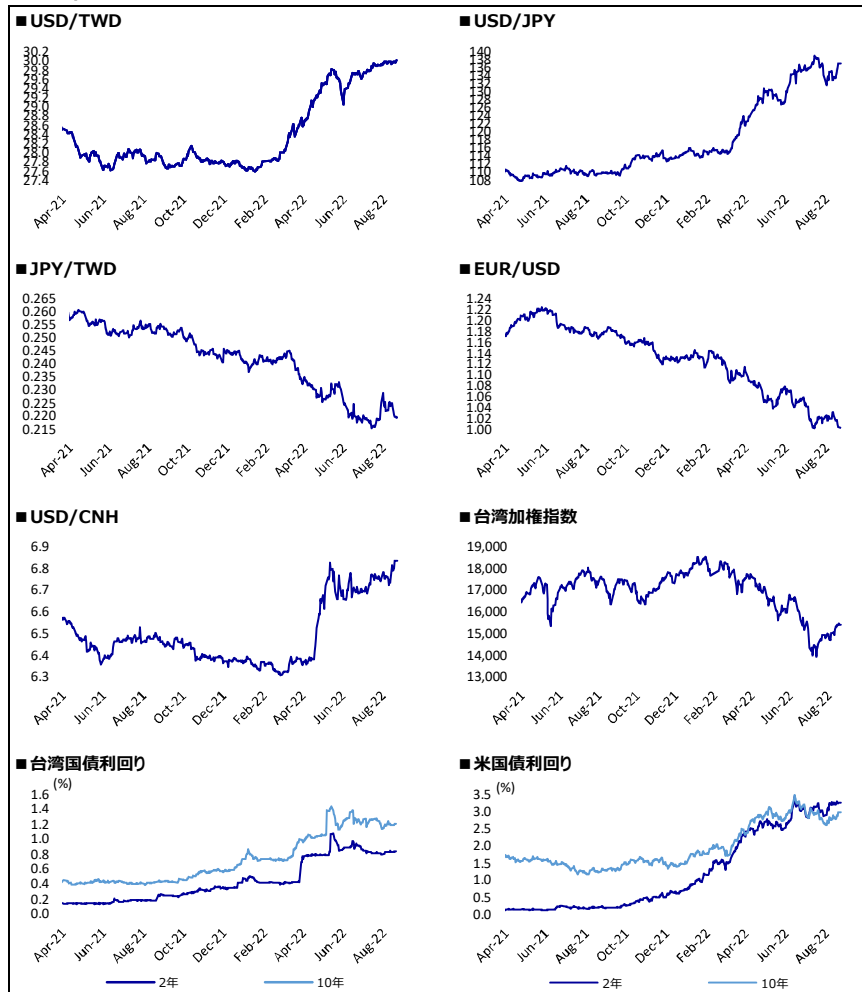


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初8/15は29.975でオープン後、台湾株が上昇するも国内投資家の買いが中心で外国人投資家は売り越ししており、ドル台湾ドルの底値は堅く、29.98付近での推移が続いた。8/16は中国の政策金利の引き下げや経済指標の悪化を受け、台湾ドル売り圧力が高まり、30台で推移したが、輸出企業のドル売りに上値は押さえられた。8/17は堅調な台湾株や下落していた人民元が反発したことを受け、台湾ドルが買い戻され、一時29.971まで下落。8/18は台湾株が急落すると台湾ドルは売られやすく、30ちよどを挟んでの推移が続いた。8/19は前日の米金利の上昇を背景にドル全面高となる中、一時30.050まで上昇。その後も底値は堅く、最終的に先週比0.2%ドル高台湾ドル安の30.020と約2年3か月ぶりの30台で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は272.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/15は133.54でオープン後、中国の政策金利の引き下げや経済指標の悪化を受け、人民元が売られドル買いが優勢となるとドル円は133円台半ばまで上昇。しかし、中国の経済指標を受けて原油が下落すると、リスクオフの円買いからドル円は下落。さらに8月NY連銀製造業景気指数が市場予想を下回り、ドル円は一時132.56まで急落。8/16は133円台に前半に戻し、米金利の上昇や米大手小売りの四半期決算が予想以上に良好であったことがドル買いのサポート材料となり、134円台半ばまで上昇。8/17は一時133円台に戻す場面もみられたが、米金利の上昇や米7月小売売上高が予想を下回った一方、コア指数は予想を上回ったことから135円台半ばまで上昇。しかし、その後のFOMC議事要旨ではハト派な内容となり、134円台に戻した。8/18は米8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数が予想を上回ると135円台前半まで回復。さらに欧州経済への懸念が高まる中、ドルが欧州通貨に対して買われるとドル円にも波及し、136円手前まで上昇。8/19は米金利の上昇を背景にドル買いが優勢となると137円台に乗せ、一時137.22まで上昇。その後もFED高官からのタカ派な発言が続いたことから高値圏での推移が続き、最終的に先週比2.5%ドル高円安の137.02で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.980-30.150
足許は再び米長期金利が上昇を背景にドル全面高の流れとなっているが、今週はジャクソンホール経済会議でのパウエルFRB議長の発言に注目が集まる。インフレ抑制のためのタカ派政策が継続であれば、ドル高となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：136.00-139.40
米7月CPI、6月開催分のFOMC議事要旨の内容を受けて一旦は利上げ速度が緩まるとの見方が強まったものの、足許はFED高官からのタカ派な発言もあり、米長期金利が上昇しており、ドル高のサポート材料となっている。今週はジャクソンホール経済会議が控えており、一旦は様子見相場となるだろうが、週末にかけてはドル高に警戒したい。

今週の予定

8/22 (MON)	台湾7月失業率、台湾7月輸出受注、米7月シカゴ連銀全米活動指数
8/23 (TUE)	ユーロ圏8月製造業/サービス業PMI、米8月製造業/サービス業PMI、米8月新築住宅販売件数
8/24 (WED)	米7月耐久財受注
8/25 (THU)	米Q2GDP確報、米ジャクソンホール経済会議（27日まで）
8/26 (FRI)	米8月ミシガン大消費者マインド確報

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。